

# 新刊紹介 --池上彰英・寶劔久俊編「中国農村改革と農業産業化」(アジ研選書No.18)(ブックシェルフ)

著者	寶劔 久俊
権利	Copyrights 日本貿易振興機構(ジェトロ)アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) <a href="http://www.ide.go.jp">http://www.ide.go.jp</a>
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	174
発行年	2010-03
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2344/00004571">http://hdl.handle.net/2344/00004571</a>

## 新刊紹介

### 池上彰英・寶劔久俊編『中国農村改革と農業産業化』（アジア研選書No.一八）

寶劔久俊



アジア経済研究所  
2009年

中国は沿海都市部を中心とした工業化によって、急速な経済成長を実現してきた。その一方で、農村工業の低迷と農業の低収益から、農村・都市間の経済的な格差は一九九〇年代頃から急速に拡大し、中国が抱える深刻な社会経済問題となっている。このような農業、農村、農民という三つの「農」をめぐる問題は、「三農問題」と呼ばれ、近年大きく注目されている。三農問題には、コメや小麦など穀物の販売価格の低迷と農民に対する重い租税負担、農村部の医療保険や年金といった社会保障制度の未整備、増え続ける農村からの出稼ぎ労働者と劣悪な就業環境など、多面的でかつ深刻な問題が数多く含まれる。

さらに農村内部にも、裕福な都市近郊農村もあれば、内陸山間部の非常に貧しい農村もあるなど、その地域間格差は極めて大きく、村民間の人的関係や経済活動のあり方も地域によって顕著に異なる。

そのため、三農問題を安易に一括りにして議論することは、非常に危険である。本書ではこのような中国農村の多面性と地域間格差を正面から受け止め、膨大な文献資料の整理と実態調査の積み重ねから、中国農村の現状と直面する課題を適切に捉えることを出発点とした。

そして、一見変化が小さいと思われるがちな中国の農村部も、経済発展の深化とともに、着実に変わってきていることを忘れてはならない。そのひとつの大きな契機となったのが、中国政府の三農問題に対する政策転換である。中国政府は三農問題の深刻化を受け、世紀の変わり目頃から新たなステージでの総合的な農村改革を推進してきた。

この総合的な改革とは、金融や財政、労働移動や土地管理等も含めた農村全体の総合的な構造調整であり、一連の改革の進展によって中国農村の社会経済構造は、近年大きな変貌を遂げてきている。この中国農村改革による農村変容の全体像を提示することが、本書の研究課題のひとつである。

本書の第一部では、現在の中国が直面する農村改革のなかで、農業保護政策と農業財政の変容（第一章）、

農村金融制度の変容と農村金融の萎縮問題（第二章）、戸籍制度と農民工政策の転換（第三章）、食品安全に向けた政府の取り組みと課題（第四章）を取り上げて議論している。その際、政府によって打ち出された各種の政策を体系的に整理するとともに、その進捗状況と課題を明らかにすることを目指した。

本書のもうひとつの研究課題は、農村改革の重要な構成要素である「農業産業化」に注目し、農業における生産・流通構造の変化を説明することにある。

中国では山東省を中心に日本向け農産物の開発輸出が広く展開されるなど、農業の生産・流通構造は一九九〇年代以降大きな変化を遂げてきた。冷凍ギョーザ事件など食品安全をめぐる一連の事件と食品検査制度の厳格化を受け、日本向け農産物輸出に減少傾向も見られる一方で、東南アジアや韓国、欧米向けの農産物輸出も急速に伸びてきている。

また、所得水準の向上とともに中国人の食品安全に対する意識にも大きな変化が起り、中国国内市場でも、有機食品や緑色食品といった安心・安全が保証される農産物への需要が高まっているのも紛れもない事実である。とくに二〇〇八年に発生した粉ミルクへのメラミン混入事件を契機に、食品安全が中国国内でより重視されてきた。

そのような文脈のなか、中国では「農業産業化」と呼ばれる農業の新

たな取り組みが進められている。農業産業化とは、「龍頭企業」と呼ばれるアグリビジネス企業が中心となり、契約農業や産地化を通じて農家や農村との連携を強化することである。それとともに、龍頭企業と農家との間を仲介する「農民專業合作組織」と呼ばれる農業協同組合が近年盛んに設立されてきた。このようなインテグレーションによる農業利益の向上と農村振興の強化は、今や中国全土への広がりを見せている。

本書の第二部ではこの「農業産業化」をテーマに分析を行う。第五章では中国における農業生産の構造的変化と都市住民の食生活の変化を概説したうえで、農産物流通システムの変容を明らかにする。そして第六章では、農業産業化の重要なアクターである龍頭企業に注目し、龍頭企業と農家との取引形態の現状と課題について考察する。

続く第七章と第八章は、ともに農民專業合作組織を分析対象とするが、第七章では農民組織の基本的特徴の整理と実際の経済的機能、第八章では農民組織のリーダーに注目し、農業産業化のなかでの農民組織の社会経済的意義を詳細に分析する。

本書をきっかけに、より多くの方々が中国の三農問題に興味を持ち、中国農村の実態に対する理解を深めてくれれば、編者としてこれ以上の喜びはない。

（ぼっけん ひさとし／アジア経済研究所開発戦略研究グループ）